

夢のつばさプロジェクト 2015年冬キャンプ 学生報告書

【日程】2015年12月23日(水・祝)～26日(土)

【開催地】(株)ブリヂストン保養所奥多摩園(青梅市)

【参加者】子ども25名(小学生17名、中学生4名、高校生4名)、
学生33名(途中入れ替わりを含む)、
社会人スタッフ/協力者14名(同上)

◆2015年冬キャンプについて

本プロジェクトの活動も5年目を迎えました。

発動以来、毎年クリスマスの時期に行っている冬キャンプを、2015年も無事に開催できましたことを、大変ありがたく、そして嬉しく感じております。

今回は、いつも私たちのキャンプを楽しみにしてくれている多くの子どもたちに加え、初参加の子どもたちが5人も来てくれて、とても賑やかなキャンプとなりました。4日間という短い時間の中ではありましたが、子どもたちとたくさんの楽しい経験を共有することができましたので、以下にご報告いたします。

◆スケジュール・概要

	午前	午後	夜
1日目 (23日)	送迎	開会式 アイスブレイク	歯磨き・食育講座
2日目 (24日)	トランプ大会	クリスマス会 (工作・サンタさんから プレゼント)	音楽会
3日目 (25日)	交流タイム	フォトフレーム作り	
4日目 (26日)	閉会式	お土産購入@上野駅 送迎	

1日目

●開会式

開会式では、学生代表から子どもたちに向けて、本プロジェクトの目標について改めて話をしました。「私たちは、このキャンプがみんなの“居場所”になるように、そしてみんなの新しい経験やチャレンジを応援できるように、いつも考えているんだよ」そう話すと、子どもたちはそれぞれに何かを感じ取ってくれているようでした。

それを踏まえ、学生スタッフで考えた今回のキャンプのテーマ「失敗しても大丈夫！思いっきり〇〇！」を発表し、キャンプ中はどんなことにも積極的にチャレンジしてほしいという学生たちの思いを伝えました。

社会人スタッフのみなさまからも温かくみんなを迎える言葉をいただき、待ちに待ったキャンプの幕開けとなりました。



●アイスブレイク

今回はアイスブレイクとして、歌に合わせて楽しくつなげていく「じゃんけん列車」、自分の名札の裏に書かれた1フレーズを見て仲間を探す「巡り合わせゲーム」、名前や習い事の数で順番に並び替わる「あいうえおゲーム」の3つをしました。

これらがすべて終わる頃には、久しぶりに会う緊張も、初めて参加する不安も、溶けてなくなってきたようでした。



●歯磨き・食育講座

歯科医の先生にお越しいただき、五感を使って食事をする事の大切さについてお話をしていただきました。よりわかりやすく子どもたちに伝わるように、目隠しをして鼻をつまんでグミを食べるという実験をご用意してくださいました。チャレンジした子どもや学生は、視覚・嗅覚を遮られた状態で味を感じる事のむずかしさを体感したようです。

また、子どもたち一人一人の歯に合った歯ブラシをプレゼントしていただき、キャンプ中に早速使っている子どもたちもいました。



2日目

●トランプ大会

大きなサイズのトランプを使って、4チーム対抗のトランプ大会を行いました。「スピード」「七並べ」「神経衰弱」の3つのゲームで、得点を競ったのですが、どれも頭を使うゲームのため、小学校低学年の子どもたちには少し難しいようでした。しかし、そこで活躍したのが中高生たちです。小さい子たちを上手に巻き込みながら、チームを勝利へと引っ張る頼もしい姿が多く見受けられました。最後には、得点に応じて一人一人に好きなお菓子をプレゼントしました。



●クリスマス会

2日目はクリスマス・イブとあって、午後はクリスマス気分を大いに味わえる企画にしました。既製の大きなツリーに飾り付けをするだけでなく、グループに分かれて手作りのミニツリーも作りました。ダンボールや色紙、モールにワイヤーなど様々な材料を使った色とりどりのツリーが完成しました。

そうして奥多摩園の研修室がクリスマス仕様になったところで、ようやくサンタさんとトナカイが到着です！笑顔の素敵なサンタさんから、子どもたち一人一人にプレゼントが手渡され、受け取った子どもたちは非常に喜んでいました。



●音楽会

ピアニストの丸木美花さん・バイオリニストの小夜子さんが、明るいクリスマスソングを演奏しながらご登場されました。子どもたちも手拍子で歓迎し、その後もクリスマスにちなんだ名曲の数々を披露してくださいました。司会は、子どもたちの中で希望してくれた小学6年生の2人が担当しましたが、大変立派に役目を果たしてくれました。また、今回は



高校2年生の男の子がフルートを、小学4年生の女の子がトランペットを持ってきてくれて、音楽家のお二人と一緒に「きよしこの夜」を演奏しました。美しい音色が奥多摩園中に響き渡り、聖なる夜がますますきらめきを増すようでした。

3日目

●交流タイム

「学生ともっと自由に遊びたい！」という子どもたちの要望のもと、今回は研修室内で気ままに遊ぶことのできる時間を設けました。トランプやウノ、折り紙、ジェンガ、塗り絵やお絵描きなど、ごく簡単な遊びを提供し、その中で子どもたちとのより一層の心の交流をはかりました。学生の似顔絵を描いてプレゼントしてくれた子や、「いつもやっているようなことでも、学生のみなどと一緒に行うことができるのが嬉しい」と話してくれた子もいて、



とても嬉しく思いました。

●フォトフレーム作り

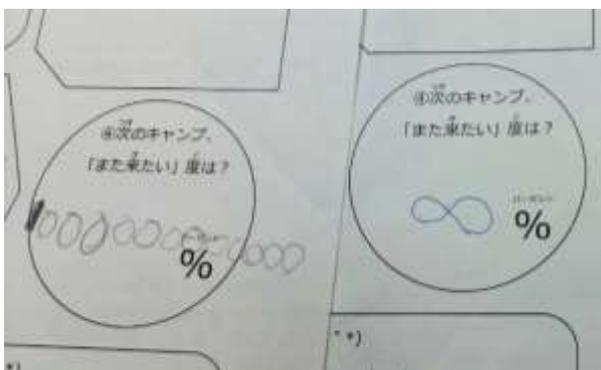
木製のフォトフレームに装飾をして、自分だけのオリジナル作品を作る企画でした。最初に、用意されたワークシートに、作品のテーマやデザイン図などを記入し、そのあと実際に装飾する工程に入りました。紙粘土、ビー玉、ビーズ、デコページ（切ったのりで貼りつけられる装飾用の紙製品）など、思い思いの材料を使って、みんな一生懸命に制作しました。



最後に、1日目に宿泊部屋ごとに撮った写真を、それぞれのフォトフレームの中に入れてプレゼントすると、とても喜んでくれました。

4日目

●閉会式



閉会式では、まず最初に振り返りシートを記入してもらいました。シートには、「キャン

プで楽しかったこと」やテーマに関連して「失敗を恐れずに思いっきりできたこと」、「次のキャンプに来たい%は?」「学生へのメッセージ」などの項目があり、4日間を通してそれぞれが感じたことをたくさん書いてくれました。

その後、キャンプ中の写真のスライドショーを観たり、子どもたちからお世話になったブリヂストン・奥多摩園のみなさんへメッセージカードをお渡ししたり、学生から子どもたちへ写真とメッセージカードのプレゼントがあったりと、内容がもりだくさんの閉会式となりました。

最後に社会人スタッフのみなさんからそれぞれ愛情のこもったお話をいただき、子どもたちもしっかりと胸に刻んでいるようでした。

その他

●子どもミーティング

今回、次の春の交流会に向けて学生と一緒に企画を作りたい子どもを事前に募ったところ、5人の子どもたちが手を挙げてくれました。そこで、キャンプ3日目夕食前・就寝前・4日目閉会式前の、合わせて約3時間半を使って、数名の学生と企画づくりのミーティングを行いました。

考えてきてもらったそれぞれの企画案を発表するところから始まり、各案のメリット・デメリットについて意見を交換しあったり、それを踏まえて次の春の交流会で実現できそうな企画を練ったりしました。全員で一生懸命取り組んだ結果、企画概要・タイムスケジュールまで決めることができました。

参加した子どもたちからは、「学生たちは、いつも私たちのためにこういう話し合いをしてくれていたんだね」「春の交流会で、自分たちの考えた企画が実行されるのがすごく楽しみ」などという声があがっていました。

◆冬キャンプを終えて

私が今回のキャンプで今まで以上に実感したことは、子どもたちは私たち学生の姿を非常によく見ている、ということでした。

子どもたちは、何気ない会話の中でも、学生一人一人について思ったことをしばしば話してくれます。「〇〇(大学生のニックネーム)は1年生なんでしょ?それなのにすごく一生懸命頑張ってるね」「〇〇の司会すっごく面白かった!」「〇〇は、怒る時は怒るからちゃんと言うこと聞かないといけないの(笑)」などの声を聞くと、学生の一生懸命な姿勢やポジティブな印象、そして時には子どもたちを思ってこそその厳しい一面までも、よく見つけてくれているなあと嬉しく思います。

また、今回は子どもミーティングで企画を練る際にも、毎回のキャンプでの学生たちの動きを考慮しての意見が多く出て、それには大変感心させられました。

私は、そんな風に子どもたちが学生の姿を見るということは、子どもたちにとって価値のある経験ではないかと思っています。この夢のつばさには、さまざまな大学・学部・学科の、個性あふれる学生たちがボランティアとして参加しております。子どもたちには、性格も価値観も多様な学生一人一人を見て、もし「いいな」と思う部分があれば、どんどん吸収していってもらえたら嬉しい、といつも考えるのです。

もちろん私たち学生は未熟で至らない部分もたくさんありますが、私たち自身も、子どもたちに追いつかれないくらいに成長し続けていけたら、というふうに思います。いつでも子どもたちに誇れる自分でいれるように。子どもたちが私たちをお手本にしたいと思ってくれたとき、しっかりと胸を張れるように。

そして、そんな私たち学生をサポートしてくださっているのは社会人スタッフのみなさまで、今回のキャンプを運営する中でも、本当に感謝する場面がたくさんございました。今後も社会人スタッフのみなさまにご指導いただきながら、双方の協力によるより良い活動ができることを望みます。

最後になりますが、学生側の細かな反省点は多々あるものの、まずは今回のキャンプを無事に終了できましたことに対し、ご協力くださいましたみなさまお一人お一人に、心よりの感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

大学生ボランティア代表 お茶の水女子大学2年 野川志織